

「研究テーマ」

新聞を身近に感じ、表現力を高め、生活や学習に生かそう

南あわじ市立阿万小学校 校長 森 健太郎
教諭 古田 文

1 はじめに

本校は南あわじ市の南部に位置し、東に諭鶴羽山の裾野から緑豊かな田園風景の広がる校区を有する。N I Eに取り組んで2年目、新聞が常に子どもたちの身近な存在であってほしいとの願いを持ち、実践を続けてきた。

2 学校としての取り組み

【新聞を常に子どもたちの側に】

職員室前の掲示板には、特に地元に関わりの深い記事を切り抜き、見出しや大切な言葉にマーカーでラインを引いて掲示した。



また、子どもたちが毎朝必ず通る児童玄関付近には、手に取りやすい高さに子ども新聞を置き、自由に閲覧できるようにした。その日のメイン記事については、毎日、図書委員会の当番が昼休み前に全校生にアナウンスし、手に取るように呼びかけた。



3 各学年の実践

【1年生の取り組み】

国語科の時間に新聞への興味を持ち、見てみよう、読んでみたいなどという関心・意欲を高めるために次のような実践をした。

(1) 新聞記事の紹介

(例1) 児童作文などの読み聞かせ

(例2) 子ども向け「学び」の、整理の仕方に関する記事などを紹介

(2) カタカナをすべて学習し終わった後に、新聞の一つの記事の中からカタカナ言葉を見つけ、ノートに書き出した。

子どもたちが知っている言葉も多くあり、「あっ、これ知ってる」「ここにある」と言いながら、興味を持ってたくさん言葉を書き出していた。



(3) 新聞記事の中から、習った漢字や知っている漢字を見つけて書き出した。

1年生で習った漢字だけでなく、自分の名前の漢字や知っている漢字を見つけては、○をつけ、書き出していった。読めない漢字もあったが、楽しそうに取り組んでいた。



【2年生の取り組み】

(1) 一つの新聞記事から

2学期初めに動物園でのパンダの短い記事を読み、「いつ」「どこで」「何があったのか」「感想」などを書いた。低学年の子どもにも興味を引きやすい内容であったのでわかりやすく、大多数の子が読み取れていた。少し長めの「宮崎駿監督引退」の記事は、長い文章でも熱心に読んでいた。ジブリのアニメの監督ということで、ニュースでもよく見ていたようだった。普段、新聞を読むことがほとんどなかったので、新聞を読むよいきっかけとなった。

(2) 新聞を使っでの発表



朝の会での新聞やニュースからのお話ができるようになってほしいと考えていた。3学期に入ってからの話題は、ソチ・オリンピックに関するが多かった。その中で、浅田

真央選手の話をしたかった子が、新聞の切り抜きを持ってきた。得点や記者会見での話を抜き書きしてメモにまとめてきていた。

それ以来、新聞を切り抜いてくる子が増えていき、家族にも手伝ってもらいながら、記事を全文読むのではなく、要点を話すようになっていった。オリンピックの記事だけでなく、教室ではやっていたけん玉をはじめ、震災、寒波、ノロウイルスなどの新聞記事を持ってきていた。

【3年生の取り組み】

(1) 国語の授業での記事活用

国語「本で調べて、ほうこくしよう」の導入に新聞を活用した。一人ひとりが調べる事ながらを探す時に、何かのヒントになればと考えたからである。自分はどんなことに興味をもっているか、また、新聞にはどんな記事が載っているのかを知る目的でグループごとに2日分の新聞を見せた。そして、次のような手順で活動を進めた。

① 広告以外で、自分が興味のある写真や記事を一つ選ぶ。



② 切り抜いた記事や写真を紙に貼り、なぜそれを選んだのか理由を書く。

③ 一人ずつ選んだ記事をテレビ画面に映して紹介する。

④友だちの紹介した記事について、自分に関心があるかどうか考える。(友だちの発表を聞いて、おもしろいと感じたり、もっと知りたいと思ったりした人は、手を挙げる)



スポーツ記事や珍しい自然現象の写真など、いろいろな内容の事がらが紹介され、友だちの発表に対して何度も手を挙げる子が多く驚いた。子どもたちは、こちらの予想以上に多方面に関心を持っているということが分かった取り組みであった。

この活動で選んだ事がらを、実際に本で調べることにした子どもも何人かいて、単元の導入をスムーズに進めることができた。

(2) 新聞づくり

環境体験学習、社会科スーパーマーケット見学、昔体験学習など、体験や校外学習を行った後に、自分が一番心に残っている事がらについて個人新聞作りに取り組んだ。最初は、メモから何を取り上げればいいのか分からず、活動が止まっていた子も、3学期には、記事を選び、大事なことを自分なりにまとめられるようになった。

【4年生の取り組み】

(1) 新聞記者の方を招いて

2学期、神戸新聞社の三好正文・淡路総局

長をゲストティーチャーとしてお招きし、新聞記事の作り方を教えていただいた。記事にするために大切なことは何か、記事の基本の5W1Hなど、子どもたちにとっては新鮮で興味深い内容だった。また、翌日の配達に間に合わせるよう、夜中までたくさんの人が新聞作りに関わっていること、毎日のように会議が行われ、みんなの協力で紙面が仕上がっていることなども教わった。



【5年生の取り組み】

(1) 一つの新聞記事から

新聞記事から「見出し」「いつ」「どこで」「どんな」などを読み取った。自由に感想を書くだけでなく、ポイントをしばって感想を書くことで、子どもたちも書きやすくなったように感じた。赤ペンでコメントを書いて返却することで、的確な読み取りができたり、長く、内容の濃い感想を書けるようになってきた。

(2) 見出しスピーチ

朝の学習タイムを使って、新聞記事を利用したスピーチを行い、関心を持った新聞記事を自分なりにまとめ、みんなの前で話した。見出しを先に紹介し、「みなさん、この見出しは、どのような内容について書かれた記事だと思いますか」と聞いている人に問いかけることで、聞いている方もどんな内容のスピー

チが始まるのかと、関心を持って聞くことができた。最初は、記事をそのまま読んだり、難しい漢字や言葉の意味が分からないまま話をしている子どももいたが、少しずつ、要約したり、自分で分からない言葉を調べたりする子どもも増えてきた。

(3) 国語「新聞を読もう」

朝刊の中から、一番大きい面積の記事を見つけたり、最も印象に残った写真の記事を探したりするなど、新聞をいろいろな角度から見た。各家庭から持ってきた新聞を友だちと見比べることで、同じ内容の記事でも新聞社によって、伝え方が違うことに気づくなどの学習ができた。



【6年生の取り組み】

(1) スクラップブック

新聞を毎日手に取る児童は多いが、身近なニュースや報道記事をしっかり読んでいる子は少なく、ほとんどがテレビ欄やスポーツ欄に目を通すだけであった。

そこで、1人1冊のスクラップブックを作って、毎日の新聞から自分が気になった記事を集めて、スクラップをしていくことにした。初めは、記事を切り抜いて貼るだけだったが、「記事の見出しやいつ、どこで、だれが、どんなことを」などと書き込んでいくように指

導し、慣れてきたら、そこへ自分の思いも書き込むようにした。



(2) スピーチ

人前で自分の考えを話すことを目的にして取り組んだ。スクラップした記事の中から、自分で発表したい記事を選んで自分の感じたことなどを発表した。その記事について質問したり感想を言うようになったりした。

4 終わりに

本校は2年間のNIE実践に取り組む中で、どの子も新聞に「触れ」「親しみ」「書かれた内容を読み取る」学習を続けてきた。職員にとっても初めての経験であり、手探りでの実践だった。それでも子どもたちは新聞に興味を持ち、ちょっとした記事でも教室に持ち込み、教えてくれるという場面があちこちで生まれた。また、これをきっかけに家で子ども新聞を購読するようになった児童もいる。

テレビやネットなどで情報が氾濫する今の時代、一番身近で確かな情報源としての新聞の価値を見直し、生活に役立てる良い機会になったと感じる。実践校としての活動は終了するが、我々教員も今回の実践を通して新聞の教育的利用について学ぶことができた。今後も授業の中に取り入れ、役立てていきたいと思う。